

〈大討論〉民主主義の再起動 基地と原発のない国にするために

第二次安倍政権以降の自公政治は、民主主義の制度を利用して民主主義の根幹を破壊し、機能停止に追い込むという倒錯した政治でした。そうした政治の結果、東アジアの軍事的緊張は高まり、普天間基地は辺野古へ移設され、日本中の原発が再稼働されようとしています。

この破壊されたままの民主主義を再び機能させるために、私たちは何をすべきでしょうか。その答えについて考えるために、反基地、反原発など、それぞれの現場で活動し、現場を報道する方々に多様な見解を語っていただきます。そうした意見の相互交換をもとに、希望を共有できるような討論会となるよう、多くの方々の参加を期待しています。

発題者（五十音順）

菅井益郎（国学院大学名誉教授、反公害・反原発運動）

半田 滋（ジャーナリスト）

久道瑛未（弁護士、元 SEALDs TOHOKU）

菱山南帆子（「戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会」共同代表）

森 啓輔（専修大学准教授、社会運動論）

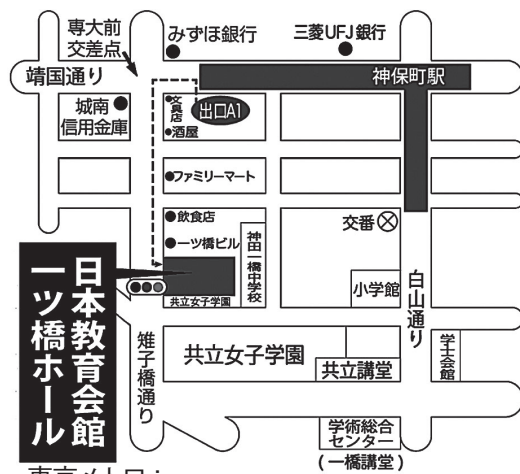
司会・進行

越智敏夫（市民文化フォーラム事務局長）

日時 **2024年 8月15日(木)**
13:30~16:30（13時開場）

場所 日本教育会館7階 中会議室
〈東京都千代田区一ツ橋2-6-2〉

参加費 一般1000円／大学生500円
高校生以下無料



東京メトロ：

新宿線・半蔵門線・三田線⇒神保町駅（A1出口）徒歩3分／東西線⇒竹橋駅（北の丸公園側出口）徒歩5分

市民文化フォーラム

千代田区神田神保町2-20 第二富士ビル 電話045-317-3325 <http://ccforumorg.seesaa.net/>

「市民文化フォーラム」結成の呼びかけ

平和主義の灯をともし続け、希望の世界地図を創るために

歴史の転換期。今ほど日々、この言葉を痛感する時はありません。◆「9.11 事件」以来、アフガン戦争、イラク攻撃などなど、圧倒的な軍事力を背景にしたアメリカ極主義の横暴ともいえる事件が次々に起きています。米英中心のイラク攻撃に対して、ニューヨーク、ロンドンをはじめ世界中で1000万人以上もの人々が一齐に「No War」を叫んでデモをしました。開戦前にこれだけ大きな反戦の動きが起こったのは人類史上はじめてのことです。しかし両国軍はこうした声をまったく無視して一方的な「無差別攻撃」を続行し、大量殺戮を行いました。これによって何が解決したのでしょうか。世界はますます混沌の様相を深めています。◆日本の状況は、さらに深刻です。改憲に向けて、「有事法制」「個人情報保護法」「教育基本法改正」などが、急速に政治日程にのぼってきています。これらは、戦前の軍国主義を正当化するとともに、日本をより強固な管理主義国家へとつき進ませるものです。そのことは再び日本を、アジアや世界からいっそう孤立させることとなります。この道を守るためには、まず過去の歴史を直視する勇気を持ち、アジアの人々と共有できる歴史認識を新たに形成することが不可欠です。◆「8.15 集会」は、旧国民文化会議（1955 年結成）の有志などによる実行委員会が 1965 年から主催してきました。私たちは、その平和主義・民主主義を徹底しようとする志に共鳴して、2001 年の国民文化会議解散後も自主的に「8・15 集会」や「12・8 集会」の開催にかかわってきました。日本の民衆が戦後半世紀以上にわたって培ってきた平和主義の灯を消してはならないという思いからです。◆これらを開催する過程で私たちは、21 世紀の世界の平和秩序、つまり「希望の世界地図」ともいべき長期展望を、市民の情報交換と徹底した討論から生み出す必要を痛感してきました。とりわけ、戦争中の日本人の加害・残虐・殺傷行為の発掘調査、各分野の新人や埋もれた物故作家の顕彰、通俗だから売れる文化商品のボイコットなど、一人ひとりの市民が自らの声で発言し、議論し、行動する文化のたたかいは日本社会に築くことが何よりも必要だと、私たちは感じています。「市民文化フォーラム」は、このような自立した市民の出会いの場を提供するための一つの試みです。

新たな世界の平和秩序を構築し、改めて人類の叡智を結集するために、私たちは次のような一歩から始めることにしました。

- ①毎年 1 回の 8・15 集会の開催
- ②年数回のシンポジウム・研究会等の開催
- ③自主的な研究分科会の開催
- ④志を同じくする他団体との連携・協力
- ⑤反戦・平和のための行動への参加
- ⑥それらの成果の発信

「市民文化フォーラム」は、年会費一人 3,000 円を負担する個人によって構成されます。心ある方々の積極的な参加を呼びかけます。

2003 年 6 月 15 日 市民文化フォーラム準備室

〈呼びかけ人〉(50 音順) 五十嵐暁郎 石川憲彦 石田雄* 市野川容孝 伊藤晶宣 鶴飼哲 上野千鶴子 内田雅敏 内海愛子 海老坂武 越智敏夫 鎌田慧 姜尚中 寿(コトブキ) 北沢洋子* 栗原彬 國弘正雄* 古関彰一 五島昌子 小森陽一 佐々木寛 佐藤学 芝生瑞和* 柴田勉春 白石孝 進藤榮一 菅井益郎 高岩仁* 高橋哲哉 高島通敏* ダグラス・ラミス 竹岡勝美* 武田敦史* 田中宏 野田正彰 橋本裕美 林茂夫* 原田正純* 針生一郎* 日高六郎* 広瀬勝芳 藤田恭平 古川純 武藤一羊 屋嘉比取* 矢倉久泰 山内敏弘 山口幸夫 吉池公史 吉見俊哉 吉川勇一* 嶺井正也 (*=故人) (2023年7月12日現在)

8・15集会の歩み

●1965 年 8・15 記念国民集会〈講演〉木下順二、丸岡秀子、藤井日達、浅野順一、岡村昭彦、田中寿美子、遠山茂樹(発言)古在由重、武田清子、カール・オグズビー、山口俊章、吉野源三郎、丸山真男、石井伸枝、寺尾邦彦、進藤英毅、阿部知二、藤田省三、日高六郎●1966 年 8・15 記念国民集会〈講演〉大江健三郎、久野取(発言)林雄二郎、岡村昭彦、D. テリンジャー、J. チャウハン、J. エンデコット●1967 年 8・15 記念国民集会(発言)宮岡政雄、美濃部亮吉、小田実、島尾敏雄、むのたけじ、陸井三郎、野崎健美、岡村昭彦、大江健三郎、日高六郎●1968 年 8・15 記念国民集会〈講演〉遠藤三郎、野坂昭如、竹内好(発言)岡村昭彦、井上正治、野崎健美、宮岡政雄、大江健三郎、庄司汎、島田いこ、伊礼孝、日高六郎●1969 年 8・15 記念国民集会(パネルディスカッション)新崎盛暉、大江健三郎、里中克彦、鈴木達夫、館野利治、針生一郎、土方鉄、森崎和枝(講演)佐藤克巳、小田実(報告)針生一郎、下野順一郎(映画)「上海」[CN]●1970 年 8・15 記念国民集会「わたしたちとアジア」佐藤克巳、田中宏、塚越正男、中西功、宋都憲、グエンチョン、日高六郎、三橋修(講演)柴田俊二、今川暎一「8・15 野外展」●1971 年 8・15 集会「いま、わたしたちは…」〈報告〉田中宏、尾崎秀樹、藤井治夫、津村喬(発言)ものべながおき、林歳徳、生田テル、坂口徳雄、塚越正男、小西誠、清水知久ほか「南京大虐殺写真展」●1972 年 8・15 集会「現在、8・15 とは」〈講演〉小山内宏、石田保昭、田中宏(発言)林歳徳、北添忠雄、林景明、進藤英毅、谷民子(映画)「わたしたちと戦争」●1973 年 8・15 集会(発言)郷静子、奥崎健三、丸山照雄、林歳徳、宋斗会、ものべながおき、ダニエル・ロベス、いいたも、●1974 年 8・15 集会(講演)李恢成、牧瀬菊枝、日高六郎●(発言)五味正彦、坂本勇、菅孝行●1975 年 8・15 集会「戦後 30 年をみつめる日本人の眼とアジア人の眼」(講演)北沢洋子、前田俊彦(発言と報告)中島正昭、光岡玄、新里金福、飯島愛子、山口幸夫、イسنナム、ツイスウフェン●1976 年 8・15 集会「ロッキード疑獄と戦後体制の終焉」前田俊彦、武藤一羊、山川暁夫、中島誠、津村喬●1977 年 8・15 集会「資源問題からみた戦後」田原総一郎、室田武、玉城哲、中島誠、鎌田慧、津村喬●1978 年 8・15 集会「新たな戦前に抗して」〈講演〉津村喬●1979 年 8・15 集会「戦争の論理・開発の論理」岡村昭彦、玉城哲、板橋明治、猪瀬建造、蜜岡溝太郎、藤谷要(映画)「TV」[佐久間ダム]●1980 年 8・15 集会「いま自衛隊とは…」神島二郎、中島誠(映画)「侵略」●1981 年 8・15 集会「危機の虚実と非防衛のススメ」(講演)日高六郎、中島誠、林茂夫●1982 年 8・15 集会「反核…あらたな出発」〈報告〉菅孝行、高木仁三郎、針生一郎、日高六郎(映画)「予言」●1983 年 8・15 集会「日本のこと考えていかな」(討論)安達宣正、矢田真弓、小宮正文、朝野日博、木田いづみ、郷敬謨、加納実紀代、日高六郎、吉岡忍、針生一郎●1984 年 8・15 集会「いま流行!? 教育」(講演)森毅(発言)加納実紀代、元谷洋子、柴田勉春、小野柳次郎、日高六郎、山住正己、針生一郎ほか●1985 年 8・15 集会「戦後 40 年 いま若者たちは…」(討論)中野取、加納実紀代、新崎盛暉、柴田勉春、楠原彰、安達宣正、針生一郎●1986 年 8・15 集会「国家をこえる生き方」(討論)最首悟、三留理男、大久保榮栄、有光健、イスネ、チョンアヨン、楠原彰、安達宣正●1987 年 8・15 集会「いま国家をこえるとは…」(講演)松井やより(討論)ロジャー・バルバース、チョンアヨン、ルベイチュン、高島敦子、針生一郎●1988 年 8・15 集会「戦後日本を問いただす—少数者の普遍性」(講演)D. ラミス(討論)中谷康子、善元幸夫、薄井清、加納実紀代(音楽)グループ多摩じまん●1989 年 8・15 集会「いま 8・15 でなにか問われているか」(講演)藤田省三(討論)五島昌子、佐久間むつみ、本尾良(音楽)サウスウインド●1990 年 8・15 集会「激動する世界のなかの日本」(講演)徐勝(討論)藤田省三、柴田勉春、有光健、渡辺英俊(映画)「日の丸と君が代」●1991 年 8・15 集会「湾岸戦争後に平和を考える」(講演)徐京植(討論)石田雄、田中康夫、國弘正雄、針生一郎●1992 年 8・15 集会「PKO 後の日本とアジアを考える 8・15 集会」(討論)石川逸子、姜尚中、川田文子、林茂夫、柴田勉春、有光健(映画)「教えられなかった戦争」●1993 年 8・15 集会「徹底討論・戦後補償と PKO」(討論)石川好、鈴木裕子、D. ラミス、保坂展人、藤井誠二、クリステア・アルコーバ ●1994 年 8・15 集会「戦後日本の平和運動を問う」(講演)小田実(討論)松井やより、田中宏、金城実、保坂展人●1995 年 8・15 集会「戦後 50 年記念」戦後アジア—ほんとうに「共に生きる」とは(講演)角田房子(討論)姜尚中、加納実紀代、黒田洋一、松井やより●1996 年 8・15 集会「敗戦から遠く離れて—再び孤立化への道? NO!」(講演)吉元政矩(討論)徐京植、ノーマ・フィールド、楠原彰●1997 年 8・15 集会「市民が切り拓く未来—危うい日本と 21 世紀の選択」(講演)小田実(討論)内海愛子、李義茂、林茂夫●1998 年 8・15 集会「歴史の記憶と忘却—いま自らの〈8・15〉を問う」(講演)樋口陽一(討論)鶴飼哲、北沢洋子、最上敏樹、加納実紀代●1999 年 8・15 集会「戦争なしで生きよう—21 世紀私たちの選択」(講演)ガバン・マコーマック(討論)嵯峨淑子、林茂夫、古山葉子、趙博●2000 年 8・15 集会「新世紀への架け橋—日本とアジアの未来のために」(講演)小田実(討論)野田正彰、田丸尚絵、内海愛子●2001 年 8・15 集会「21 世紀をどう生きるか—『構造改革』・ナショナリズムを検証する」(講演)武藤一羊(パネルディスカッション)矢倉久泰、内海愛子、吉岡忍●2002 年 8・15 集会「グローバルな『有事体制』を撃つ—一人ひとりからの出発」(講演・討論)内海愛子(司会)、C. ダグラス・ラミス、鶴飼哲、古関彰一、遠藤盛章●2003 年 8・15 集会「『有事体制』下の平和構想—『希望の世界地図』を創るために」(講演・発言・討論)鶴飼哲(司会)、姜尚中、佐藤学、李、元、古関彰一、針生一郎、北沢洋子「市民フォーラム発足記念レセプション」●2004 年 8・15 集会「新たな『平和への準備』—イラク・憲法・教育基本法を考える」(講演・発言・討論)Patr1「グローバルな『全体主義』の今」小林正弥、高橋哲哉、森達也、越智敏夫(司会)、Part2「日常から平和をつくるために」きくちゆみ、小森陽一、広河隆一、佐々木寛(司会)「寿ミニライブ」●2005 年 8・15 集会「連帯をとりもどす」(基調講演)「戦後 60 年の心配」日高六郎、Patr1 私からの出発「海老坂武、渡辺厚子、杉田敦、越智敏夫(司会)、Patr2 国境をこえる連帯」姜尚中、遠藤裕未、小倉利丸、佐々木寛(司会)、富山妙子展「20 世紀へのレクイエム」●2006 年 8・15 集会「(抵抗)の文化をつくりだす」第 1 部「抵抗の文化をつくりだすために」高橋哲哉、目取真俊、市野川容孝(司会)、第 2 部「戦争に向かう気分と平和をつくる文化」松村真澄、班忠義、KP、高橋哲哉、目取真俊、市野川容孝(司会)、第 3 部「報告・交流会—実践としての市民文化」[KP ミニライブ]●2007 年 8・15 集会「8・15 と日本国憲法—いまこそ主権在民を」(基調講演)「8・15 と日本国憲法」奥平康弘、(講演・討論)「憲法と改憲手続法」阿部知子、落合恵子、福島みずほ、小森陽一、市野川容孝●2008 年 8・15 集会「憲法と連帯—新たな共同性を求めて」(開催にあたって)「新共同代表として」小森陽一、市野川容孝(講演・討論)鴨桃代、斉藤貴男、龍井葉二、湯浅誠●2009 年 8・15 集会「市民による社会変革—その未発の契機と可能性」(基調対談・討論)ノーマ・フィールド、広田照幸、内海愛子、小森陽一、市野川容孝●2010 年 8・15 集会「平和の条件を根底から考えなおす—アジアの平和と市民」(基調講演)村井吉敬、南風鳥渉、内海愛子、古関彰一、小森陽一、佐々木寛(司会)●2011 年 8・15 集会「脱原発宣言—文明の転換点に立つて」(問題提起)高橋哲哉、小泉好延(発言)内海愛子、市野川容孝、越智敏夫(司会)●2012 年 8・15 集会「(政治)を私たちの手に—「3・11」後の新しい日本社会を創り出すために何が出来るか」(発題者)松本哉、奥地圭子、中山均、五野井郁夫、小森陽一(司会)●2013 年 8・15 集会「日本国憲法をとらえ直す」(発題者)鶴飼哲、内海愛子、辛淑玉、中島岳志、市野川容孝(司会)●2014 年 8・15 集会「民主主義をとりもどす」(発題)斎藤美奈子、内海愛子、菅井益郎、谷山由子、小森陽一(司会)●2015 年 8・15 集会「戦後 70 年」(発題)樋口陽一、海老坂武、落合恵子、島洋子、辻本清美、内海愛子(司会)●2016 年 8・15 集会「『言論の自由』と政治—時代閉塞をこえる道」(発言)岸井成格、七沢潔、福島瑞穂、内海愛子、佐々木寛(司会)●2017 年 8・15 集会「改憲前夜—今、私たちがすべきこと」(発言)森達也、明田川融、山口菊子、李泳采、新垣毅、佐々木寛、越智敏夫(司会)●2018 年 8・15 集会「『市民』の(これまで)と(これから)を考える—「8・15 集会」の思想と精神」(発言)広瀬勝芳、黒川創、海老坂武、佐々木寛(司会)●2019 年 8・15 集会「(戦後日本)の現在—歴史と自治の現場から」(発題)斎藤美奈子・保坂展人(討論)内海愛子、越智敏夫(司会)●2020 年、2021 年、2022 年、新型コロナ流行の為休止●2023 年 8・15 集会「日本の「植民地戦争」責任と戦後民主主義の枯死について」(発題)慎着宇(討論)内海愛子